

報告

令和6年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」結果について

令和6年10月10日
学 校 教 育 課

児童生徒一人一人の学力の伸びや非認知能力の変容を確かめられる京都府独自の調査を実施

- 1 調査名称 京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～
- 2 調査目的 児童生徒の伸びや変容から、指導のポイント・課題を把握し、より効果的な指導を実現
- 3 調査対象 府内公立小・中・義務教育学校及び特別支援学校の小学校第4学年～中学校第3学年
(京都市除く)

【令和6年度受検者数(人)】

	小学校 第4学年	小学校 第5学年	小学校 第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年	中学校 第3学年
国語	8,944	8,960	8,950	8,770	8,761	8,684
算数・数学	8,936	8,966	8,946	8,773	8,761	8,683
英語					8,758	8,674
実施校数	197	197	197	100	100	100

- 4 実施時期 令和6年5月23日(木)～5月29日(水) 中学校
5月30日(木)～6月5日(水) 小学校
- 5 調査内容 教科に関する調査 小学校第4学年～第6学年：国語、算数
中学校第1学年：国語、数学(算数)
中学校第2、第3学年：国語、数学、英語
質問調査 生活状況、非認知能力、学習への取り組み方等、ICT利活用に関連する調査
- 6 調査の特徴<IRT×CBT方式> 全府実施は全国初
 - (1) 教科に関する調査及び項目反応理論【IRT (Item Response Theory)】を用いた学力の推定
・異なる調査でも、調査結果を直接比較することができるIRTを用いることで、学力の伸びを確かめることが可能となる。
*上記のためには、「過去問題」の利用が必要であるため、出題問題は非公表
 - (2) 非認知能力や学習への取り組み方等を確かめられる質問調査
・京都府教育振興プランに示す3つのはぐくみたい力*、学習への取り組み方等について、複数の質問項目を組み合わせることで測定
(*「主体的に学び考える力」、「多様な人とつながる力」、「新たな価値を生み出す力」)
 - (3) 調査方法 1人1台端末で出題及び解(回)答【CBT (Computer Based Testing)】
- 7 返却する個人結果票：別紙参照

1 調査の概要

(1) 調査の目的

学習指導要領に示す目標や内容に照らした学習の実現状況及び児童生徒の学習環境や家庭における生活状況等の特徴や課題など、児童生徒の「認知能力の伸び」と「非認知能力の変容」を継続的に把握する。その伸びや変容に影響を与える諸要因を客観的データに基づき分析・考察し、個別最適な学びと協働的な学びを実現する教員の指導力等についての有用な情報を得ることにより指導上の課題を明らかにして、授業改善を推進し、確かな学力をはぐくむ。

(2) 調査の対象

小学校第4学年～第6学年及び中学校第1学年～第3学年、義務教育学校前期課程第4学年～第6学年及び後期課程第7学年～第9学年、特別支援学校小学部第4学年～第6学年並びに中学部第1学年～第3学年

(3) 調査の実施日

ア 小学校第4学年～第6学年、義務教育学校前期課程第4学年～第6学年
特別支援学校小学部の第4学年～第6学年

令和6年5月30日（木）～ 6月5日（水）までの実施指定日に、各校1学年ずつ実施

イ 中学校第1学年～第3学年、義務教育学校後期課程第7学年～第9学年
特別支援学校中学部第1学年～第3学年

令和6年5月23日（木）～ 5月29日（水）までの実施指定日に、各校1学年ずつ実施

(4) 調査の内容

ア 教科に関する調査

(ア) 出題内容

基礎的・基本的な知識や技能を問う問題と知識・技能を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等を問う問題の約30問。解答方法は、選択式及び短答式とする。

(イ) 出題範囲

・小学校第4学年～第6学年、義務教育学校前期課程第4学年～第6学年
前年度までの国語科、算数科の学習内容の定着状況が把握できるもの

・中学校第1学年及び義務教育学校後期課程第7学年

小学校修了段階までの国語科、算数科の学習内容の定着状況が把握できるもの

・中学校第2学年～第3学年、義務教育学校後期課程第8学年～第9学年

前年度までの国語科、数学科、外国語科（英語）の学習内容の定着状況が把握できるもの

(ロ) 時間配当

小学校第4～第6学年は1教科40分、中学校第1～第3学年は1教科45分を標準実施時間とする。

イ 児童生徒質問調査

(ア) 出題内容

生活状況に関する項目、非認知能力に関する項目、学習方法等に関する項目、ICT利活用に関する項目で構成した小・中学校共通の約100問の選択式の質問（外国語（英語）に関する項目は小学校は回答しない）。

(イ) 時間配当

小学校第4～第6学年は40分程度、中学校第1～第3学年は45分程度を目途に実施。

(5) 実施方法

1人1台端末を用いた調査（CBT：Computer Based Testing）とする。

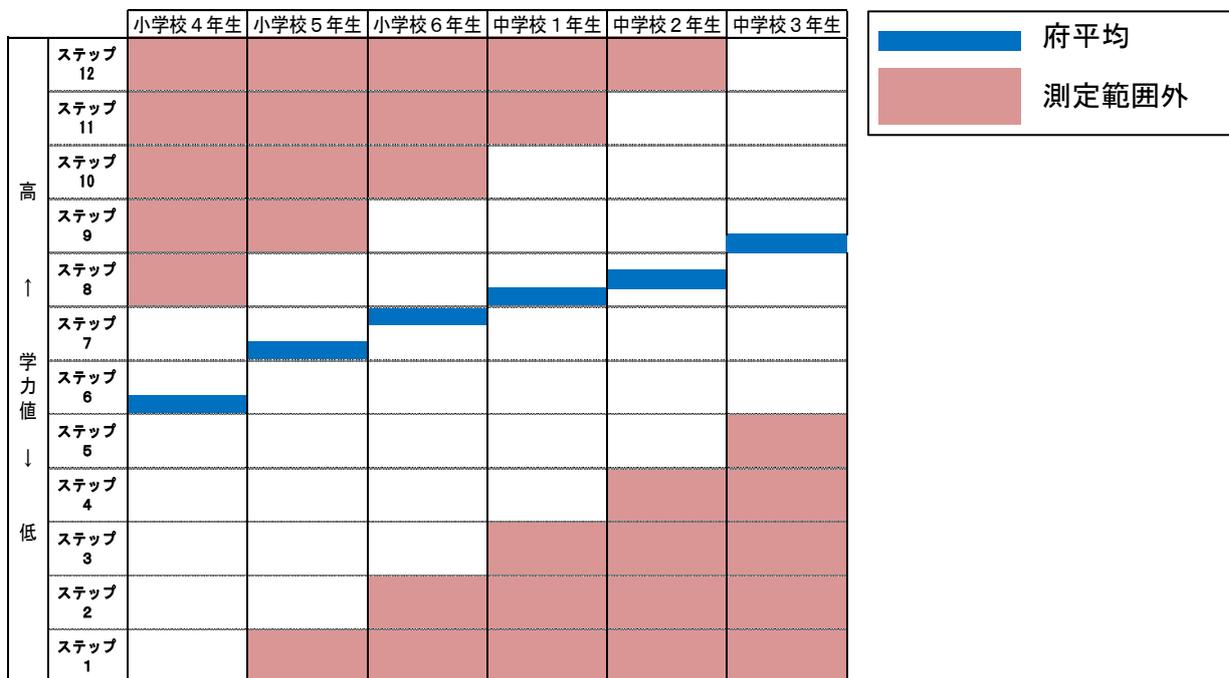
また、本調査では、問題の難易度の推定や児童生徒の学力の推定のために、IRT（項目反応理論）という統計理論を用いることで、これまでの学力調査では確認することのできなかった児童生徒個人の経年での学力の伸びを確認することができる。

2 結果の概要

(1) 学力の状況

○令和6年度の各教科、各学年の府平均学力ステップ

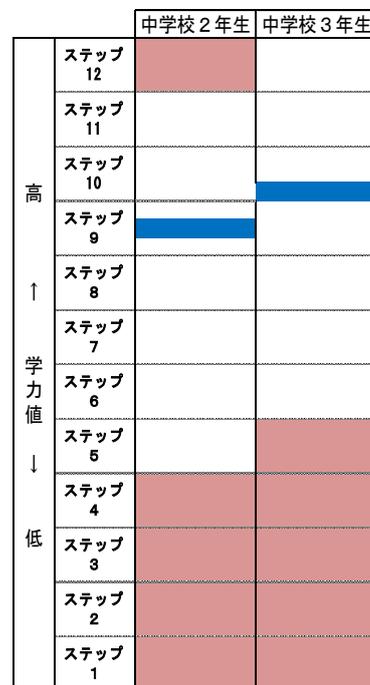
国語



算数・数学



英語



※各学年の学力のステップは下記の範囲内【36段階（12ステップ×3層*）】で設定

小学校 第4学年	小学校 第5学年	小学校 第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年	中学校 第3学年
1-C～7-A	2-C～8-A	3-C～9-A	4-C～10-A	5-C～11-A	6-C～12-A

※各ステップの中で学力の高い順からA、B、C

(2) 学力の伸び

○昨年度の調査から学力が伸びた児童生徒の割合(%)

	小学校 第5学年	小学校 第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年	中学校 第3学年
国語	75.0	68.5	71.9	58.1	63.1
算数・数学	63.9	60.0	67.5	46.3	47.0
英語					68.7

*教科に関する調査及び項目反応理論【IRT (Item Response Theory)】を用いた学力の推定による「学力が伸びる」ためには、次の3つの条件をすべて満たすことが必要

- ①調査の前年度に学んだ内容の問題が解けること
- ②調査の前々年度までに学んだ内容の問題も解けること
- ③前年度の調査に比べて難易度の高い問題が解けること

○同一学年の学力ステップの推移

○国語

学 年	小4時	小5時	小6時	中1時	中2時	中3時
現中3					令5 8-A	令6 9-C
現中2				令5 8-C	令6 8-B	
現中1			令5 7-A	令6 8-C		
現小6		令5 7-C	令6 7-A			
現小5	令5 6-C	令6 7-C				
現小4	令6 6-C					

○算数・数学

学 年	小4時	小5時	小6時	中1時	中2時	中3時
現中3					令5 8-B	令6 8-B
現中2				令5 7-A	令6 8-C	
現中1			令5 7-C	令6 7-A		
現小6		令5 6-B	令6 6-A			
現小5	令5 6-C	令6 6-B				
現小4	令6 5-A					

○英語

学 年	中2時	中3時
現中3	令5 9-A	令6 10-C
現中2	令6 9-B	
現中1		
現小6		
現小5		
現小4		

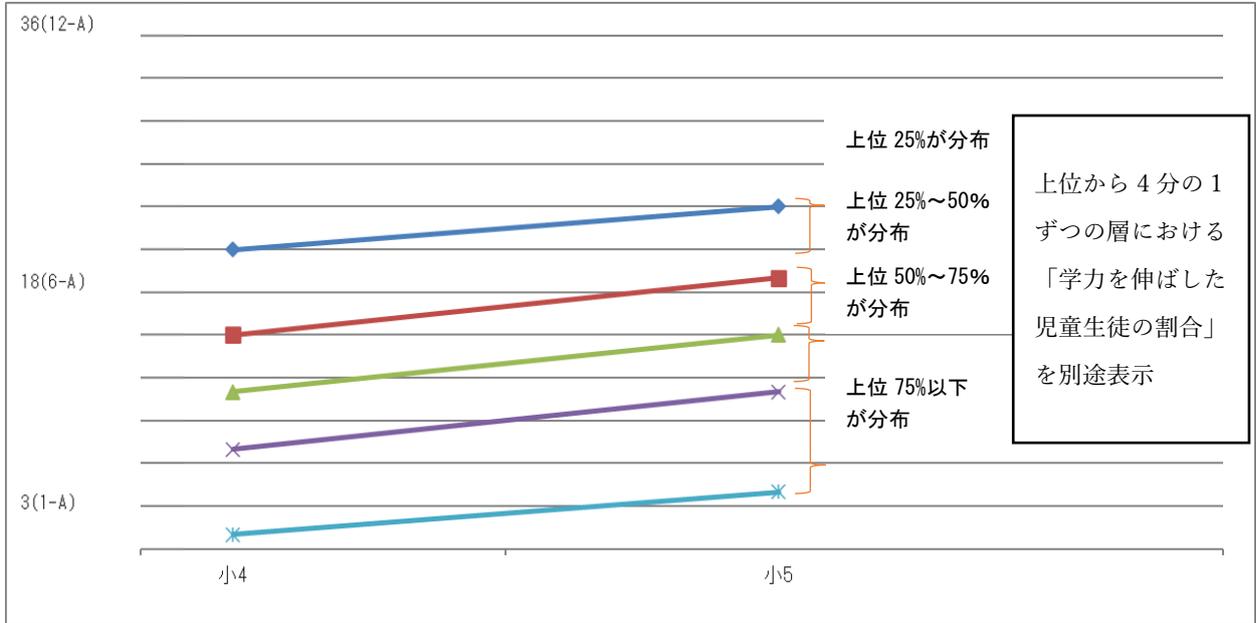
昨年度の調査から学力が伸びた児童生徒は、小学校第5学年から中学校第1学年では、国語及び算数・数学において60～75%程度であった。中学第2学年では、国語で58.1%、数学で46.3%伸びた。中学第3学年では、国語で63.1%、数学で47.0%、英語で68.7%伸びた。

また、同一学年の学力ステップの推移を見ると、現学年としては、中学校第3学年の数学を除き、全ての学年・教科で昨年度から学力ステップが上がった。

(3) 学力層別に見た学力の伸び

【グラフの見方】

以下のグラフは、同集団の過去の学力と今年度の学力を比較し、その変化をグラフで表したものの。グラフの縦軸は、学力ステップを表す。目盛りは、個人結果票の学力ステップ(12段階)を表している。目盛りと目盛りの間は、それぞれ3段階(A,B,C)の差がある。



- ◆ ⇒ 最大値 (最も学力が高い児童・生徒が属する学力ステップ)
- ⇒ 75パーセンタイル (学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力ステップ)
- ▲ ⇒ 中央値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力ステップ)
- × ⇒ 25パーセンタイル (学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力ステップ)
- * ⇒ 最小値 (最も学力が低い児童・生徒が属する学力ステップ)

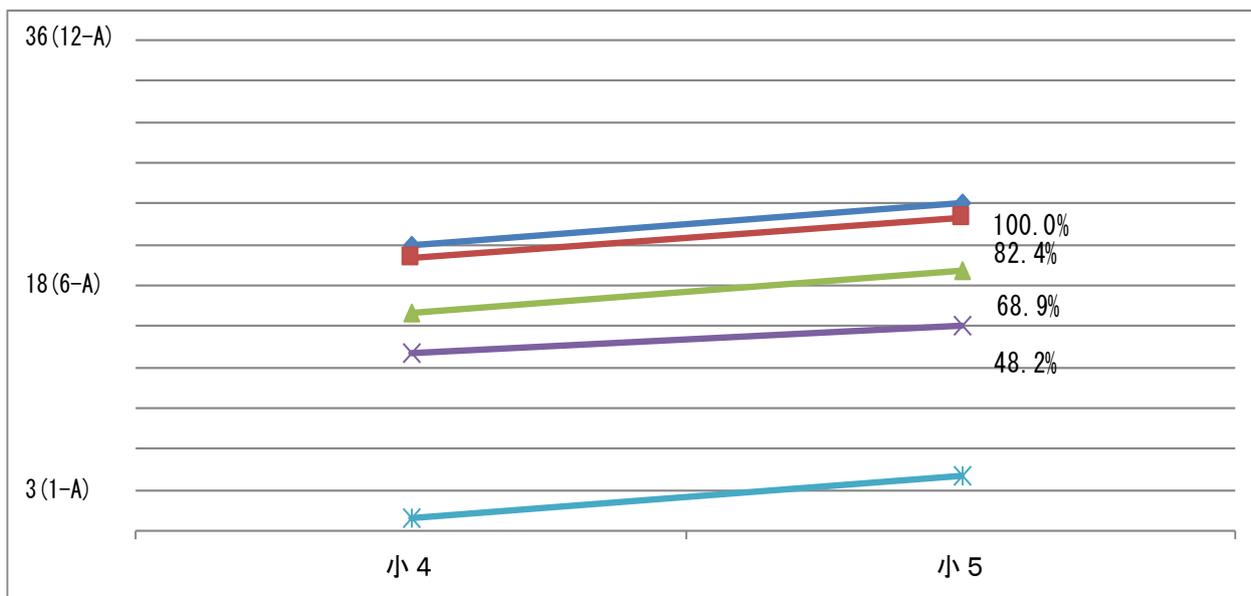
【グラフの見方】

どの分布も右肩上がり	傾きにばらつき①	傾きにばらつき②
上位層、中位層、下位層の、いずれの層の児童生徒も学力を伸ばしている。	上位層に伸びは見られないが、中位層、下位層の児童生徒の学力は伸びている。	上位層は伸びているが、中位層にほとんど変化はなく、下位層の学力は下がっている。

小学5年 国語

【令和2年度小学校入学。（現小学校5年生）】

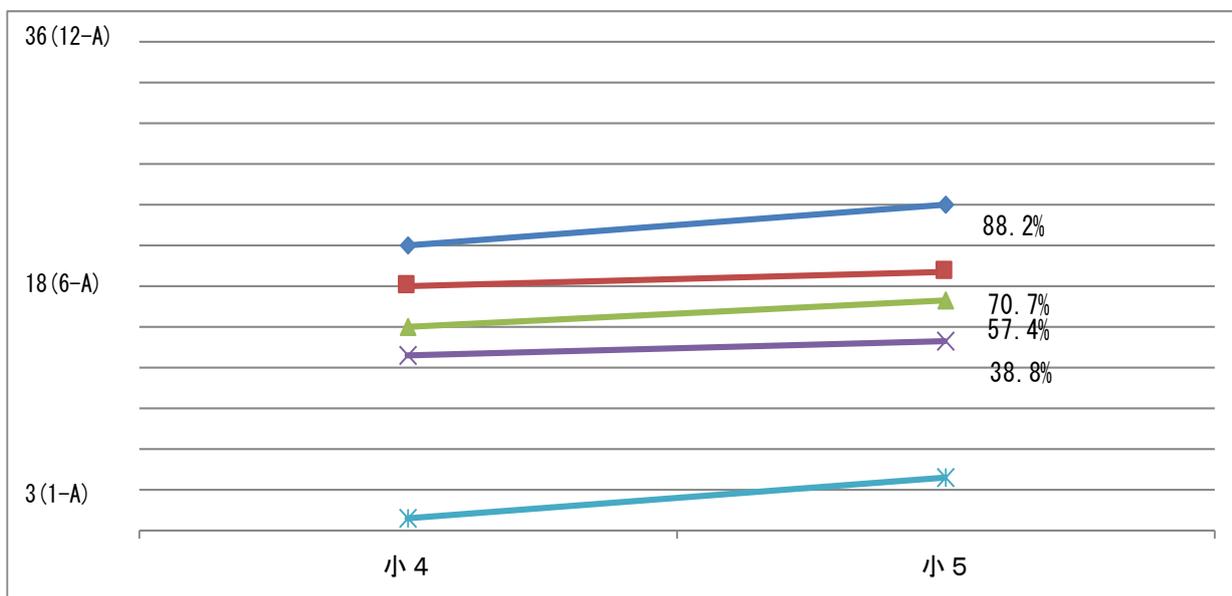
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	21	24	-	-	-	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	20	23	-	-	-	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	16	19	-	-	-	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	13	15	-	-	-	-
最下位の児童生徒が属するステップ	1	4	-	-	-	-



小学5年 算数

【令和2年度小学校入学。（現小学校5年生）】

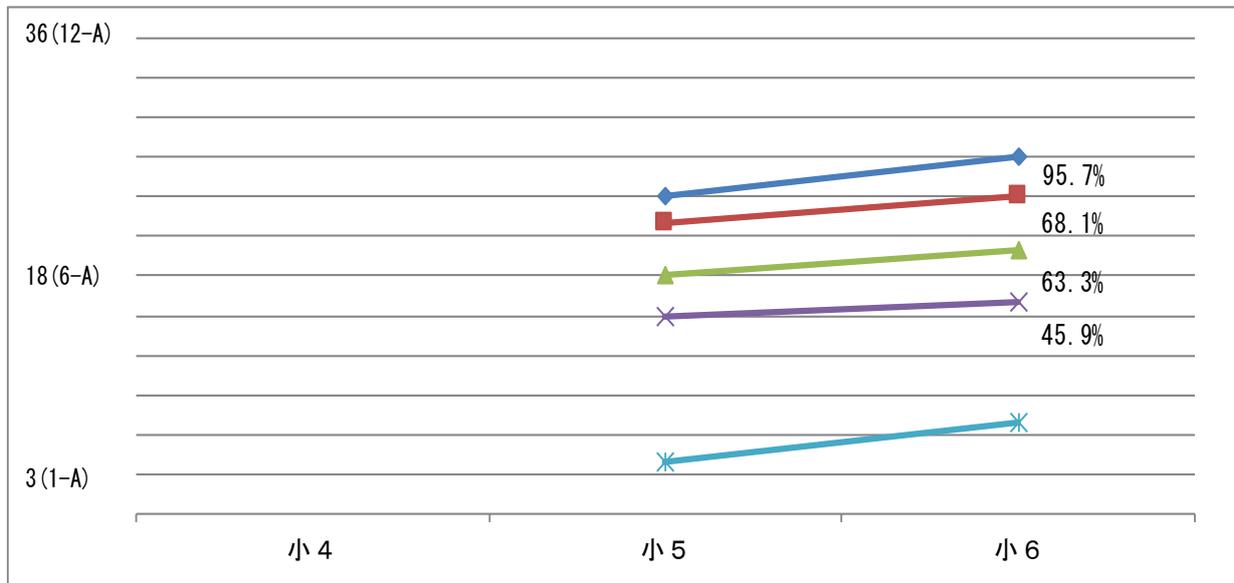
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	21	24	-	-	-	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	18	19	-	-	-	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	15	17	-	-	-	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	13	14	-	-	-	-
最下位の児童生徒が属するステップ	1	4	-	-	-	-



小学6年 国語

【令和元年度小学校入学。（現小学校6年生）】

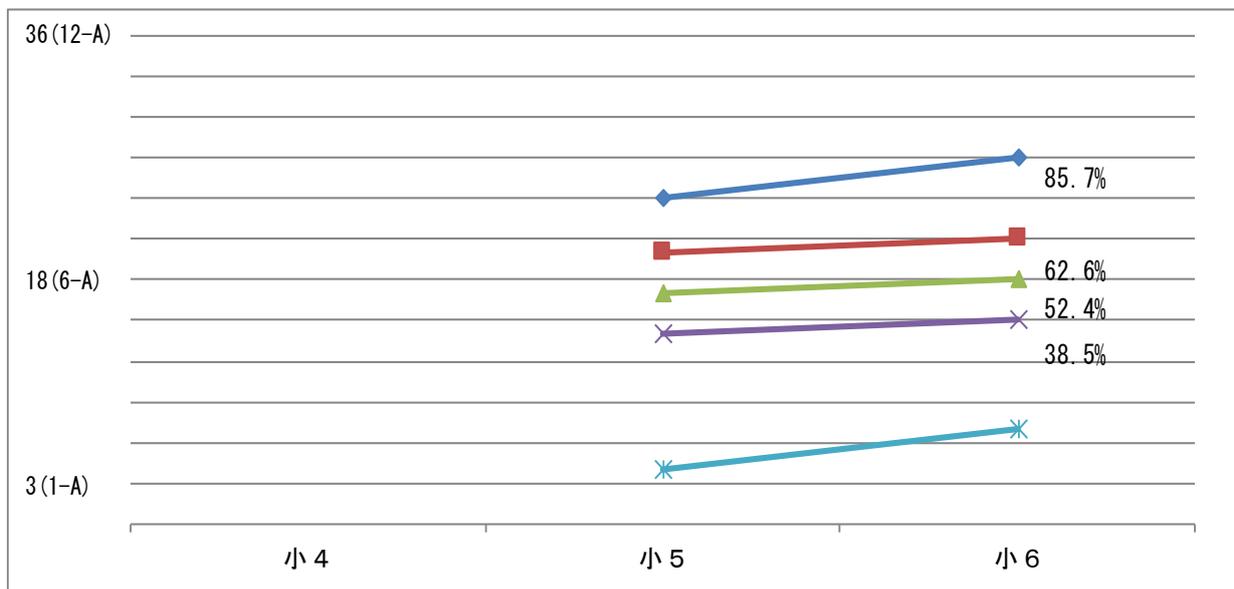
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	24	27	-	-	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	22	24	-	-	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	18	20	-	-	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	15	16	-	-	-
最下位の児童生徒が属するステップ	-	4	7	-	-	-



小学6年 算数

【令和元年度小学校入学。（現小学校6年生）】

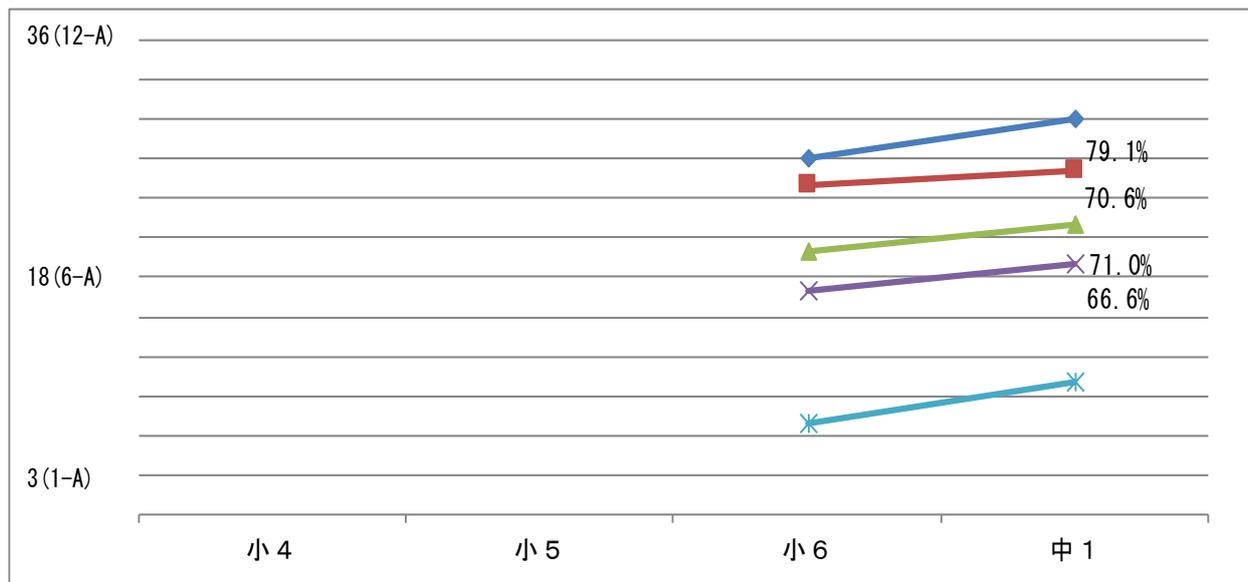
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	24	27	-	-	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	20	21	-	-	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	17	18	-	-	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	14	15	-	-	-
最下位の児童生徒が属するステップ	-	4	7	-	-	-



中学1年 国語

【平成30年度小学校入学。(現中学校1年生)】

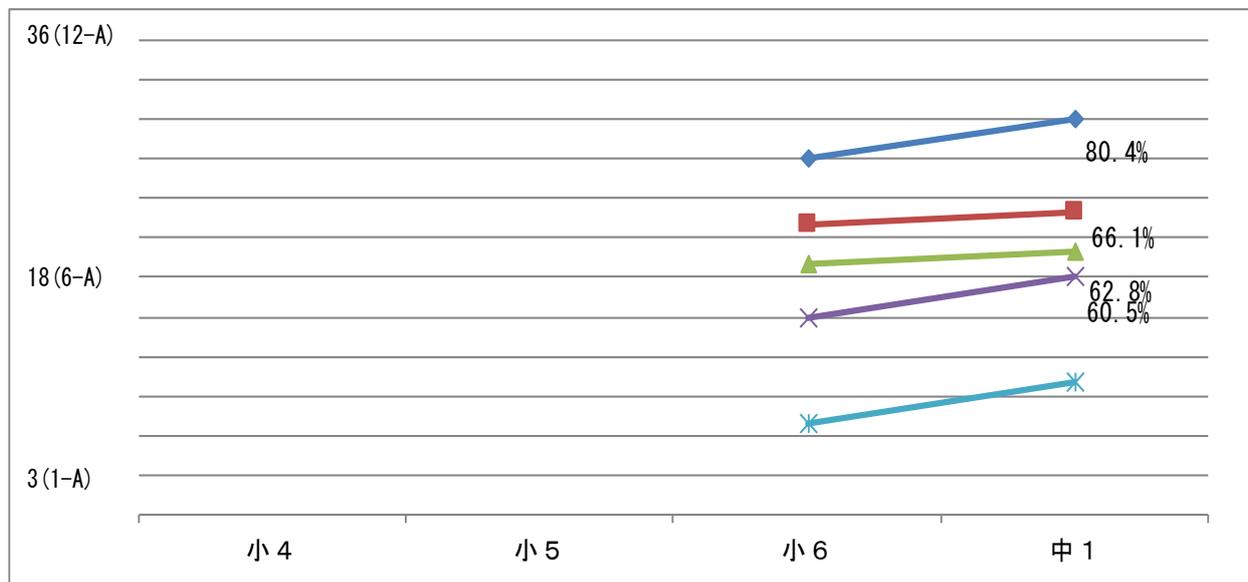
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	-	27	30	-	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	25	26	-	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	20	22	-	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	17	19	-	-
最下位の児童生徒が属するステップ	-	-	7	10	-	-



中学1年 算数・数学

【平成30年度小学校入学。(現中学校1年生)】

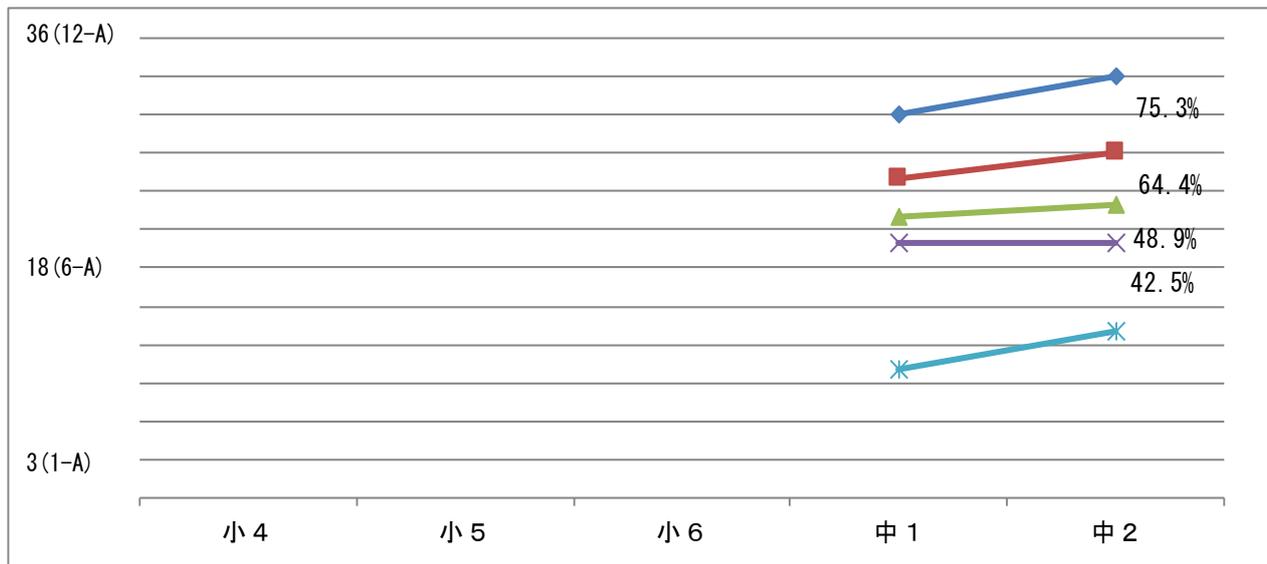
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	-	27	30	-	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	22	23	-	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	19	20	-	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	15	18	-	-
最下位の児童生徒が属するステップ	-	-	7	10	-	-



中学2年 国語

【平成29年度小学校入学。(現中学校2年生)】

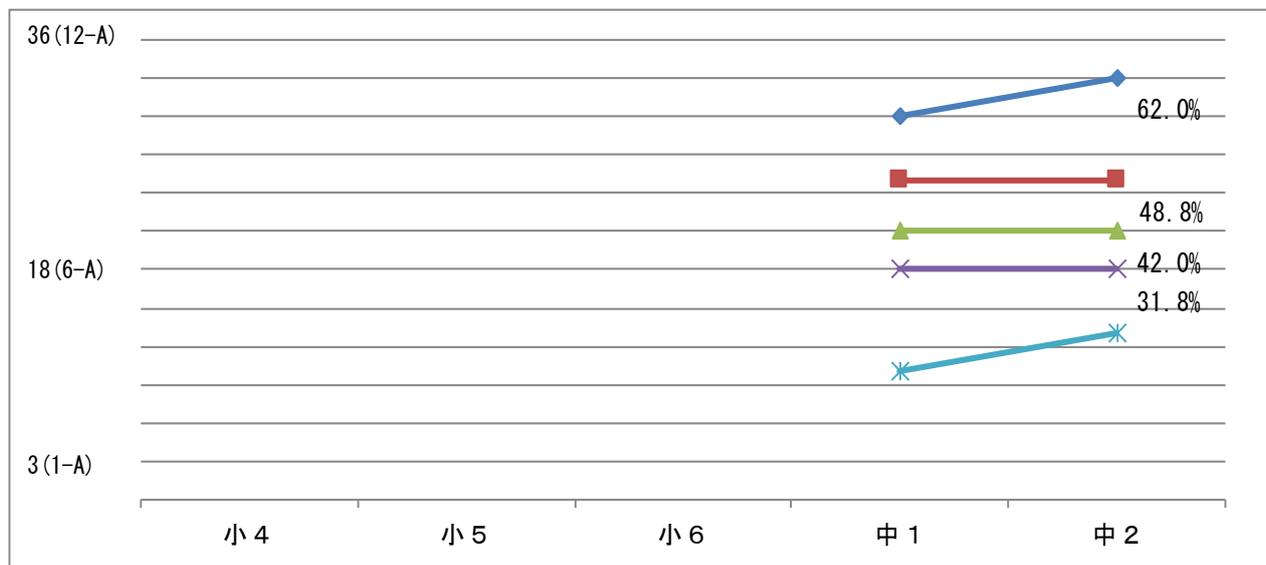
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	30	33	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	25	27	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	22	23	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	20	20	-
最下位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	10	13	-



中学2年 数学

【平成29年度小学校入学。(現中学校2年生)】

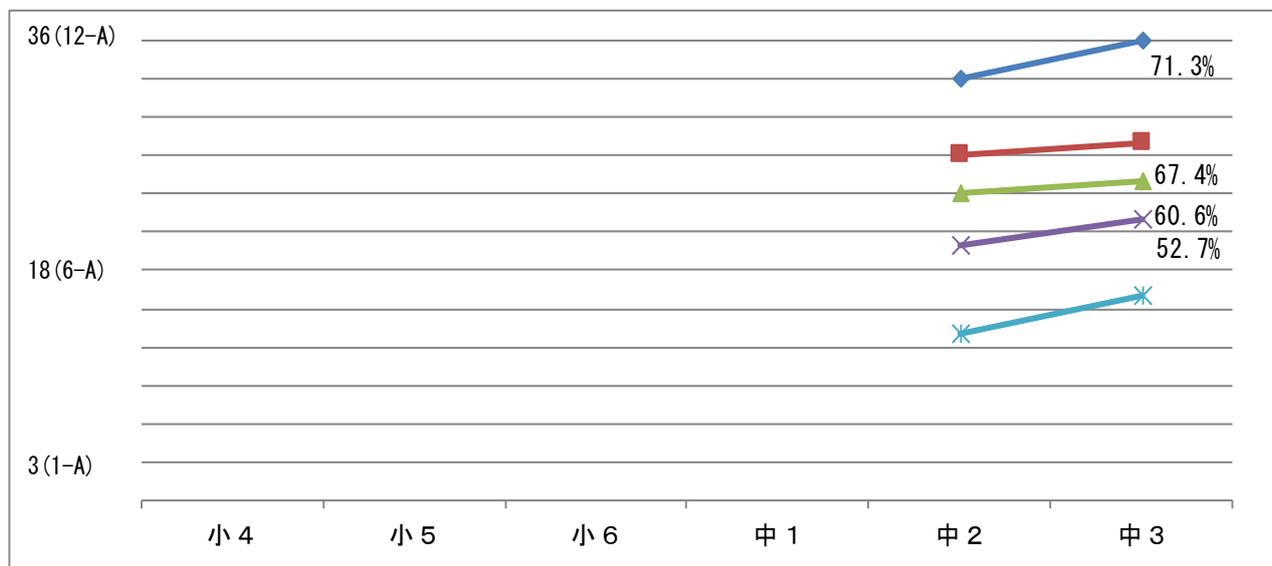
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	30	33	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	25	25	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	21	21	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	18	18	-
最下位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	10	13	-



中学3年 国語

【平成28年度小学校入学。（現中学校3年生）】

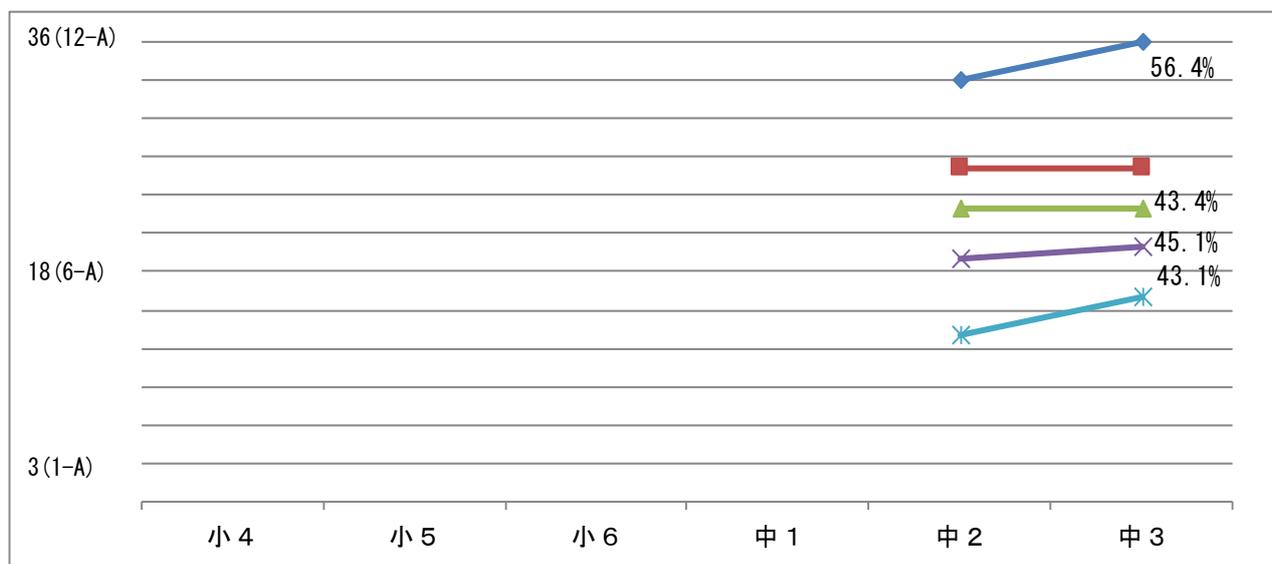
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	33	36
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	27	28
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	24	25
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	20	22
最下位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	13	16



中学3年 数学

【平成28年度小学校入学。（現中学校3年生）】

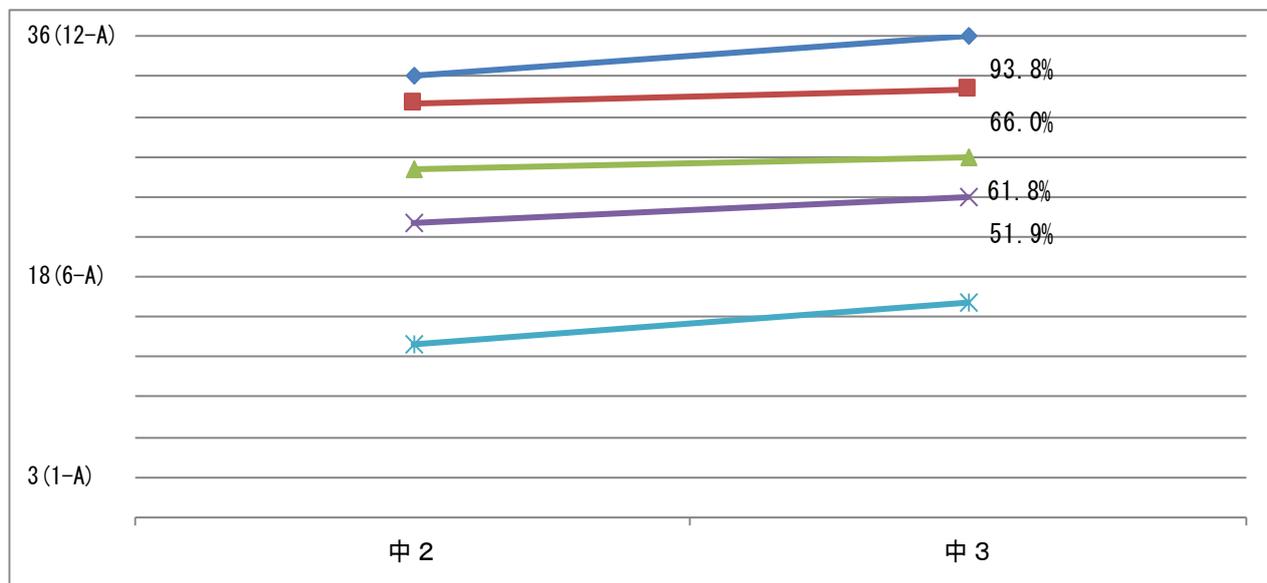
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	33	36
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	26	26
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	23	23
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	19	20
最下位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	13	16



中学3年 英語

【平成28年度小学校入学。(現中学校3年生)】

学年	中2	中3
最上位の生徒が属するステップ	33	36
上位から25%に位置する生徒が属するステップ	31	32
中央に位置する生徒が属するステップ	26	27
上位から75%に位置する生徒が属するステップ	22	24
最下位の生徒が属するステップ	13	16

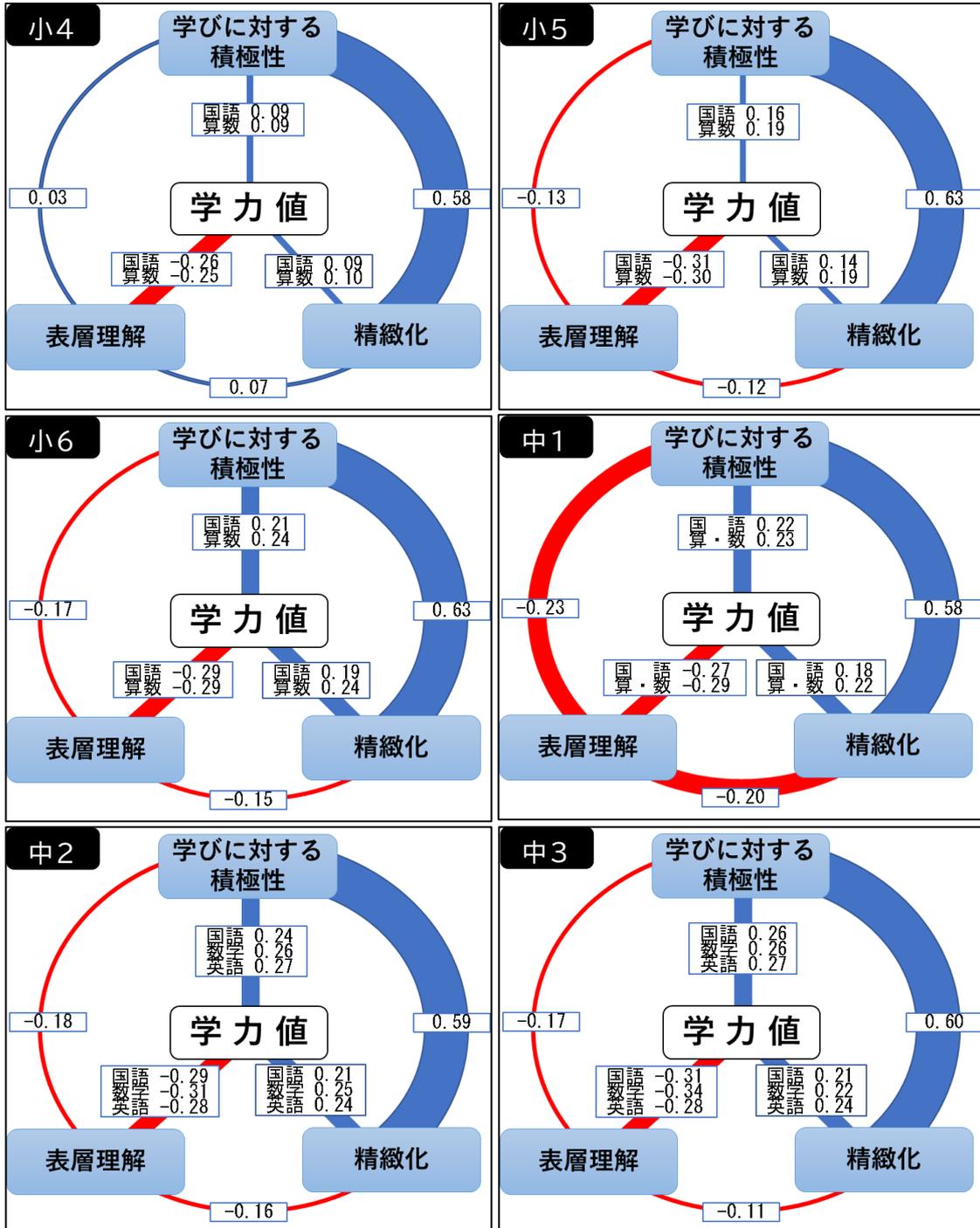


小学校第5学年から中学校第1学年については、すべての学年・教科において、どの層も伸びている傾向が見られた。中学校第2学年及び第3学年の数学においては、中間層の伸びが表れにくかった。また、全学年・教科において、上位層の児童生徒の方が、学力を伸ばした児童生徒の割合が高く、下位層の児童生徒の方が、学力を伸ばした児童生徒の割合が低いことが分かった。

(4) 質問調査の状況

ア 教科に関する調査結果と質問調査結果の相関関係(例)

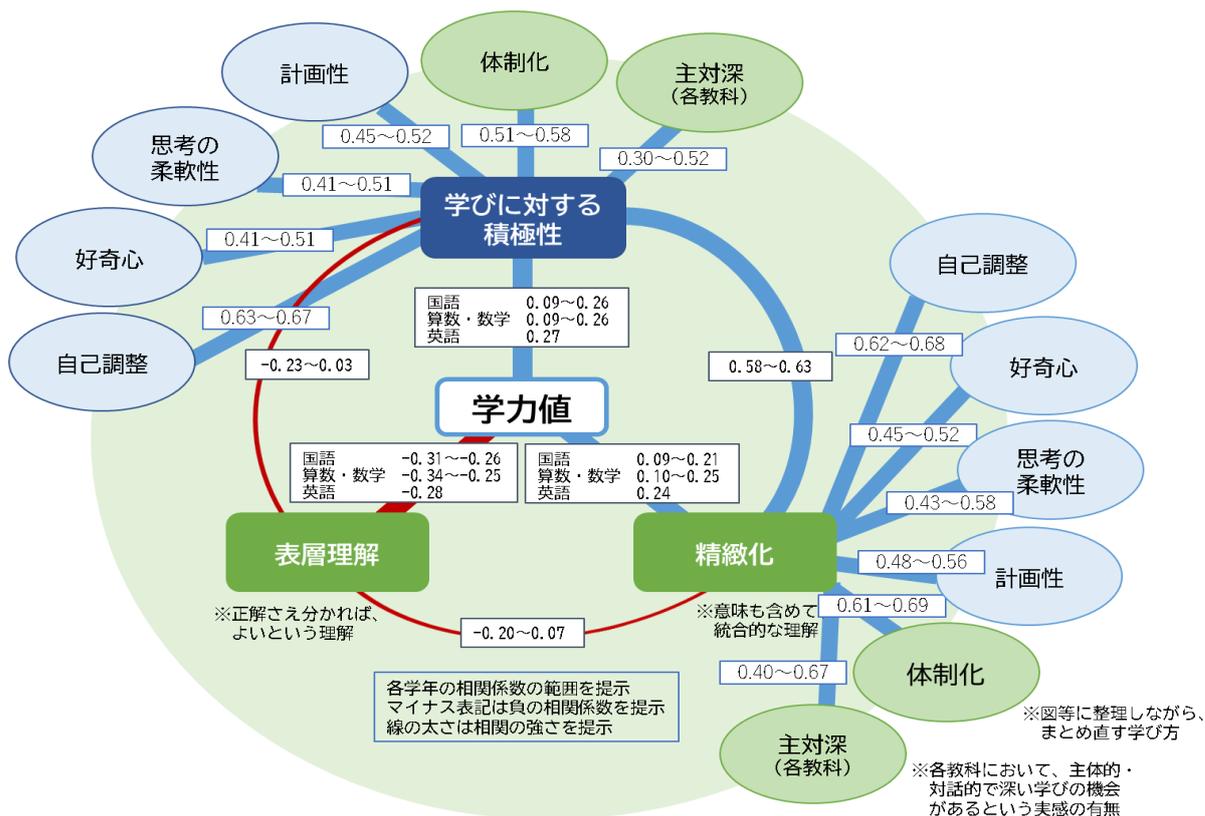
<p>数字は相関係数を示す マイナス表記は負の相関係数を示す ±0.2 以上細線 (弱い相関) ±0.4 以上太線 (強い相関)</p>	<p>学びに対する積極性：学びを広げたり深めたりするために自ら積極的に調べたり学んだりしようとする姿勢 精緻化：意味も含めて統合的な理解 表層理解：正解さえ分かればよいという理解</p>
---	---



教科に関する調査結果と「学びに対する積極性」及び「精緻化」との間には正の相関関係があり、その大きさは、学年が上がるにつれてやや高くなる傾向がみられた。一方、教科に関する調査結果と「表層理解」との間には負の相関がみられ、小学校第5学年以上の学年で顕著にみられる傾向にあった。

学力ステップが高い児童生徒ほど、学びを広げたり深めたりするために自ら積極的に調べたり学んだりしようとする質問や、学んだことを関連付けたり、活用したりする学習経験についての質問に対して、肯定的に回答していることが分かった。

イ 学力値及び非認知能力、学習方法の相互の相関関係



学びに対する積極性	小4	小5	小6	中1	中2	中3
自己調整	0.63	0.65	0.67	0.63	0.66	0.67
好奇心	0.49	0.51	0.53	0.45	0.49	0.50
思考の柔軟性	0.51	0.50	0.49	0.41	0.42	0.44
計画性	0.51	0.52	0.49	0.46	0.45	0.46
体制化	0.56	0.56	0.58	0.51	0.51	0.51
主体的・対話的で深い学び（国語）	0.52	0.51	0.48	0.40	0.37	0.34
主体的・対話的で深い学び（算数・数学）	0.51	0.51	0.46	0.37	0.35	0.30
主体的・対話的で深い学び（英語）					0.35	0.33
精緻化	小4	小5	小6	中1	中2	中3
自己調整	0.66	0.67	0.68	0.62	0.62	0.64
好奇心	0.51	0.51	0.52	0.45	0.46	0.47
思考の柔軟性	0.58	0.55	0.53	0.45	0.43	0.45
計画性	0.56	0.54	0.53	0.48	0.46	0.48
体制化	0.69	0.68	0.69	0.61	0.61	0.61
主体的・対話的で深い学び（国語）	0.67	0.64	0.59	0.49	0.45	0.41
主体的・対話的で深い学び（算数・数学）	0.65	0.63	0.57	0.46	0.44	0.40
主体的・対話的で深い学び（英語）					0.40	0.40
「主体的・対話的で深い学び」における教科間の相関係数	小4	小5	小6	中1	中2	中3
主体的・対話的で深い学び（国語）（算数・数学）	0.77	0.76	0.74	0.62	0.58	0.54
主体的・対話的で深い学び（国語）（英語）					0.62	0.60
主体的・対話的で深い学び（英語）					0.59	0.58

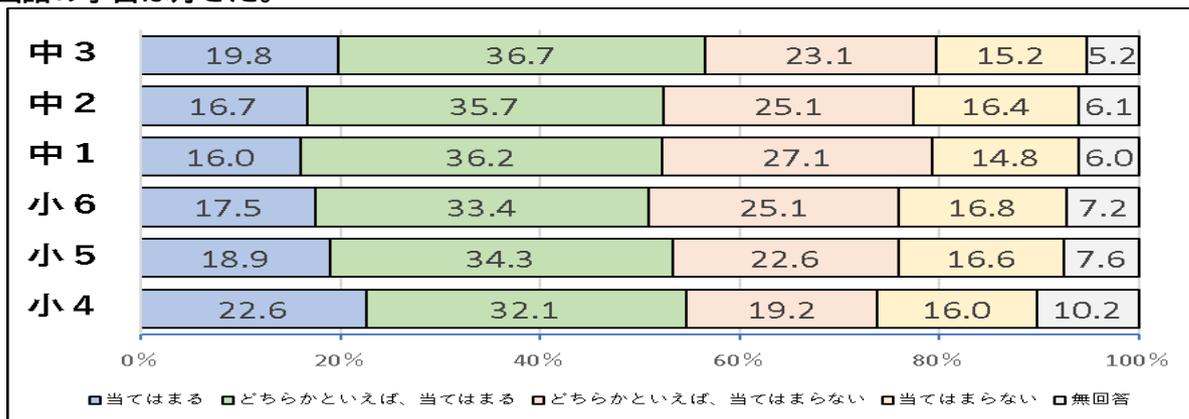
「学びに対する積極性」という質問項目の回答状況を分析すると、「自己調整」、「好奇心」、「計画性」、「体制化」、「精緻化」、「主体的・対話的で深い学び」との間に相関が見られた。

「精緻化」という質問項目の回答状況を分析すると、「自己調整」、「リハーサル」、「体制化」、「主体的・対話的で深い学び」との間に相関が見られた。

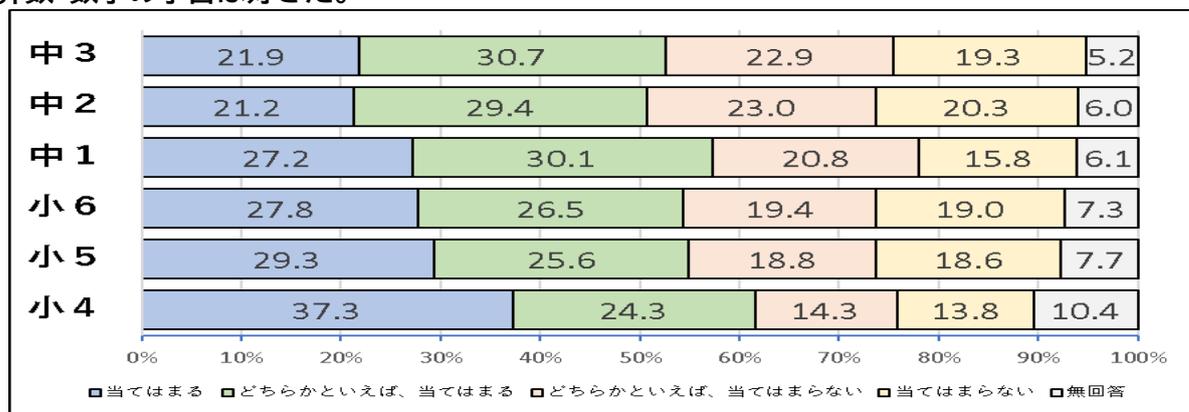
「主体的・対話的で深い学び」の項目の結果から、中学校は小学校と比較すると、教科間の「主体的・対話的で深い学び」の相関係数の差が大きい。中学校は小学校と異なり、教科担任制であることから、授業者による授業改善の差が影響を与えていると考えられる。

ウ 質問調査状況(教科の学習が好きだ)

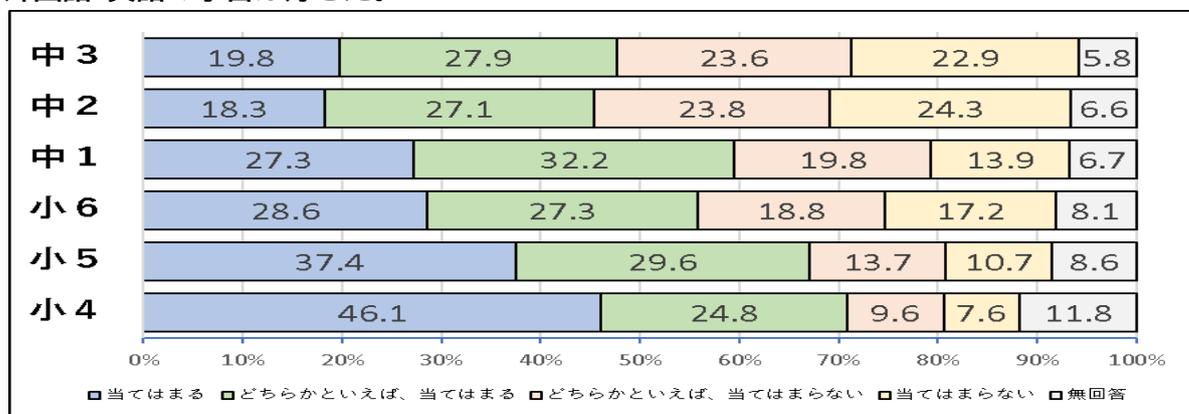
・国語の学習は好きだ。



・算数・数学の学習は好きだ。



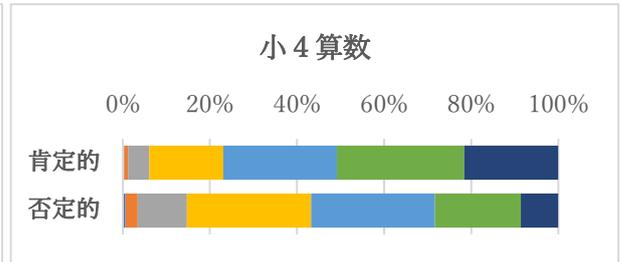
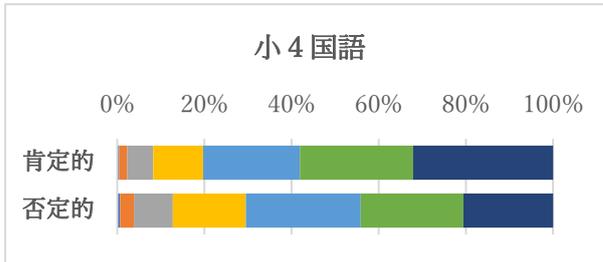
・外国語・英語の学習は好きだ。



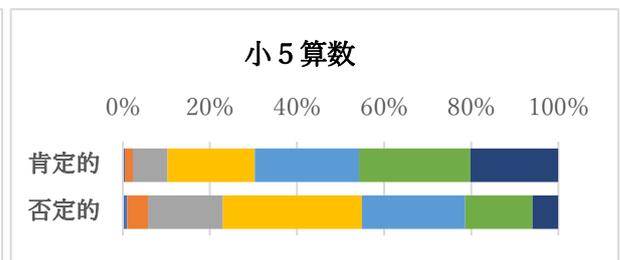
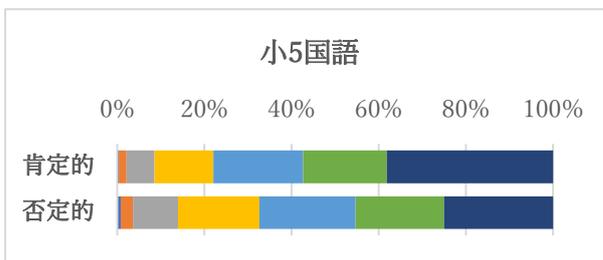
・肯定的回答、否定的回答それぞれにおける各学力ステップの割合

「肯定的」（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）

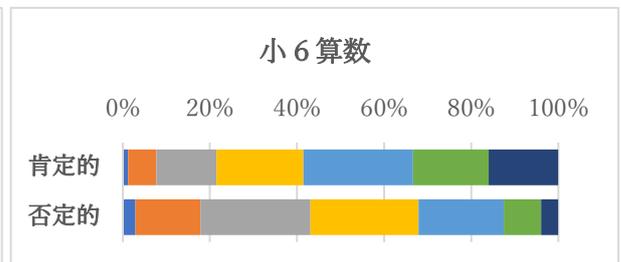
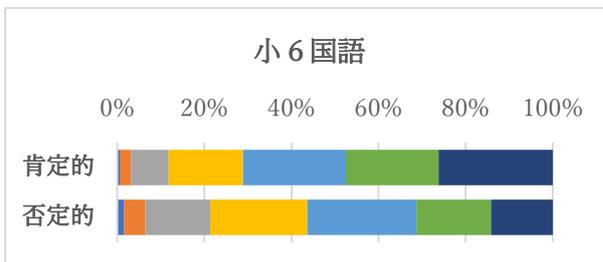
「否定的」（「どちらかといえば、当てはまらない」＋「当てはまらない」）



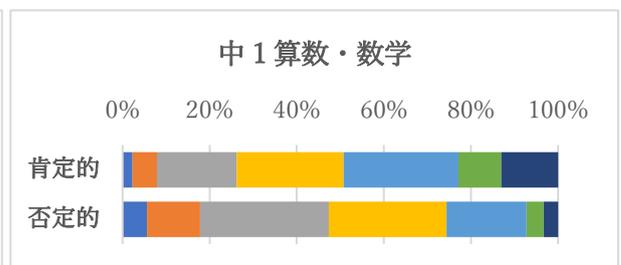
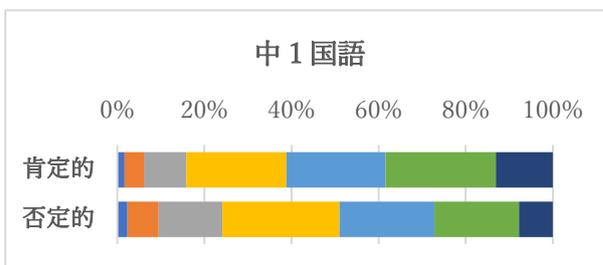
■ ステップ1 ■ ステップ2 ■ ステップ3 ■ ステップ4 ■ ステップ5 ■ ステップ6 ■ ステップ7



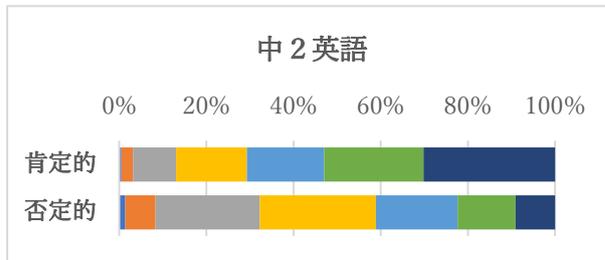
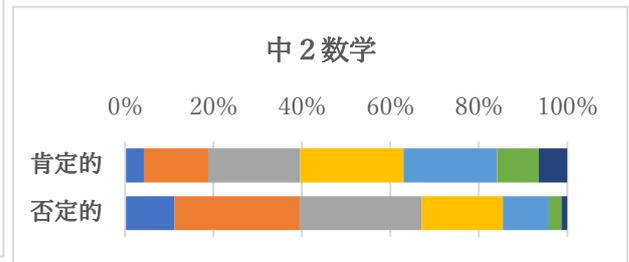
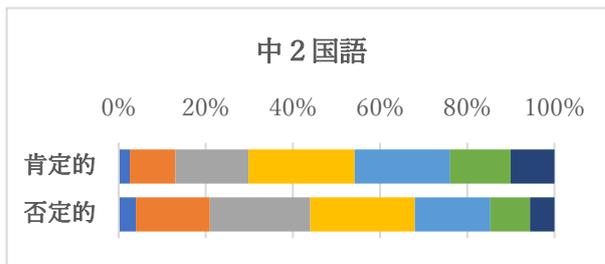
■ ステップ2 ■ ステップ3 ■ ステップ4 ■ ステップ5 ■ ステップ6 ■ ステップ7 ■ ステップ8



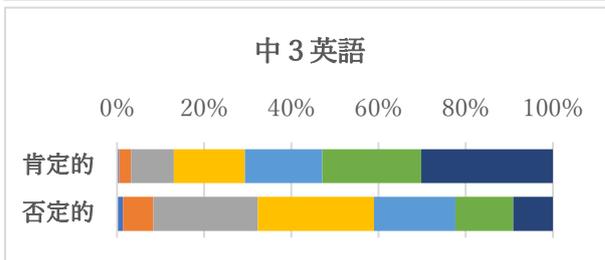
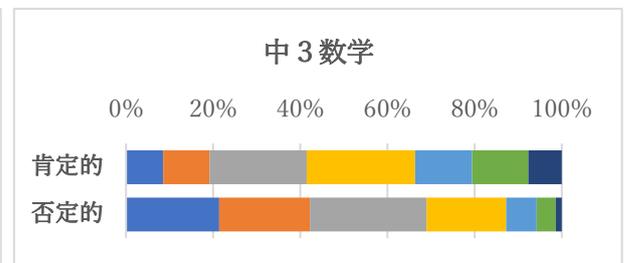
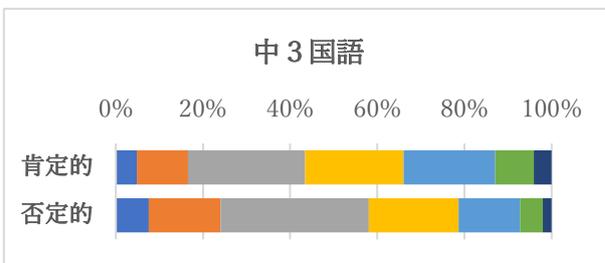
■ ステップ3 ■ ステップ4 ■ ステップ5 ■ ステップ6 ■ ステップ7 ■ ステップ8 ■ ステップ9



■ ステップ4 ■ ステップ5 ■ ステップ6 ■ ステップ7 ■ ステップ8 ■ ステップ9 ■ ステップ10



■ ステップ5 ■ ステップ6 ■ ステップ7 ■ ステップ8 ■ ステップ9 ■ ステップ10 ■ ステップ11



■ ステップ6 ■ ステップ7 ■ ステップ8 ■ ステップ9 ■ ステップ10 ■ ステップ11 ■ ステップ12

「教科の学習が好き」という質問項目の回答状況を学年毎に見ると、算数・数学及び英語において、学年が上がるにつれて肯定的な回答が減少した。とりわけ、英語においては、その傾向が顕著であった。

「教科の学習が好き」という質問に対して、「当てはまる」と「どちらかといえ、当てはまる」と回答する「肯定群」と「どちらかといえ、当てはまる」と「当てはまらない」と回答する「否定群」とに分けて見ていくと、すべての教科において、ステップが高い児童生徒ほど肯定的に回答している割合が多かった。

3 結果からの考察

教科に関する調査結果と「学びに対する積極性」及び「精緻化」との間には、正の相関関係があり、その傾向は、小学校第6学年以上の学年においてやや高くなる傾向が見られた。また、教科に関する調査結果と「表層理解」との間には負の相関がみられ、小学校第5学年以上の学年で顕著に見られる傾向にあった。

また、学力ステップが高い児童生徒ほど、学びを広げたり深めたりするために自ら積極的に調べたり学んだりしようとしているといった質問や、学んだことを関連付けたり、活用したりしているといった質問に肯定的に回答していることが分かった。他方、学力ステップが低い児童生徒ほど、解き方が分からなくても答えが合っていればよいといった質問に肯定的に回答していることも分かった。

算数・数学の学力値については、学力中位層の伸びが表れにくいことが特に中学第2学年及び第3学年に見受けられる。これは前年度までの既習内容の定着が不十分なことが要因であると考えられる。国語及び英語の学力値においては、文章内容の複雑さや抽象度が高くなることから、学力中位層の伸びが表れにくいことが考えられる。

「教科の学習が好き」という質問項目の回答状況を分析すると、教科間で差はあるが、学力との正の相関関係が見られた。「自己調整」、「学びに対する積極性」、「体制化」、「精緻化」、「主体的・対話的で深い学び」とも正の相関関係が見られた。

以上の結果から、教科の学習が好きであることと、主体的な学びにつながりがあると考えられる。このため、各学校には、すべての児童生徒の「もっと知りたい、探究しよう」とする知的好奇心を活かした授業展開や学習活動の工夫が求められる。具体的には、小学校の低・中学年から、調べたいことや分からないことがある時に、自ら行動できるような学習環境や学習機会を確保し、豊かな学びにつなげていくことが求められる。また、授業の中で、児童生徒が自分の考えを表現することや他者との対話に価値を見出し、目的意識をもって学習活動に取り組むことが大切である。さらに、既習事項や他教科の学びを活かす等の学習経験を積むことで、教科の魅力や学ぶ意義を、児童生徒が実感し、深い学びにつなげることができると考える。

基礎・基本の確実な定着や、活用力・対応力の育成につながる教育課程を編成することはもちろん、ICTやクラウド環境も効果的に活用しながら、日々の授業の中で主体的・自律的に非認知能力を育み、学習方法を身に付けさせ、深い学びにつながる授業改善が求められる。

4 結果の活用

7月26日に調査結果を各学校に返却するとともに、府教育委員会主催で府内全小・中学校を対象とする研修（活用研修会）を8月及び10月の2回実施した。府内全校での結果分析や校内研修の実施、学校改善プランの策定等を促している。これらの取組により、RV-PDCAサイクルを確立させ、3学期から次年度の指導・学校運営の改善につなげる。

また、個々の児童生徒の結果については、9月10日以降に各学校において返却。調査結果を振り返る取組が進められている。

今後、府教育委員会において調査結果のさらなる分析を進め、年度末までに各学校における授業改善の参考となる「学校改善支援プラン」を策定予定である。府教育委員会においても、これらの結果を施策や指導助言の改善に活用していく。